

## 労働運動の起因

我國に於ける労働運動の起因に就いては種々ある。権力の壓迫に對して起つたものでこの運動はその運動方法が頗る急激である第二に數ふべきものは、労働者の自覺から起つた運動で眞に自助に依つて社會的地位の向上を促さうといふ運動であるから穩健である。

次ぎに思想の轉移から來た運動、之れは歐洲戰亂後歐洲の國家並に世界に異常な變動が生じたので夫れを其の儘我が國に移植しようといふ氣分の人々の間に於て起された運動である。

第四に數ふべきものは、大正五年以來殊に同八年前後に於て社會問題、労働問題が旺になつて斯の問題を提唱せねば如何にも社會の進運に遅れた人の様に思はれると云ふ時代に於て所謂人氣に投せんとする賣名者、何がなしに自己賣名を爲すと云ふ野心の人々の間に試みられた運動がある。新聞紙上に於て報道された運動は此の種のものが比較的多かつたのであつた。

労働者の眞の自覺から起る労働運動は最も合理的のものであつて労働階級に教育が普及されれば、される程此の問題は當然起るべきものである。現代の經濟組織には幾多の缺陷がある、さうして政治家、資本家の頭に人間的理解が甚だ薄いのであるから（或は諒つて居りながら行はなからぬのかも知れないが）當然此の問題は絶叫されるに至るのである。過去の資本家は我利と頑冥より外に何物も知らない者がたま／＼あつた。過去の失業士族が政界に起つて權力を存し眞面目で正直に勤勞を爲す人々は何時も下層階級の取

扱ひを受け貧乏から脱することか出來ないといふ云ふが如き社會制度であつては人間味に生かんとする人々は何うしても黙つて居る譯には行かないのである。之れは人間として社會としても國家としても當然此の問題の革新を策して合理的に爲さしめねばならぬ事だらうと思ふ、私は切に自覺ある運動を要求して止まないものである。

労働者は生産上の勇者でありながら、下層階級としての取扱ひを受け常に貧乏より脱することが出來ないといふので正當な倫理的經濟的運動を開始するに至つたのである。故にこの運動は經濟向上を圖らんとすると同時に健康を要求し、教育を要求し而して倫理的運動を起して社會的に向上すると云ふにある。此の種の運動は眞に意義ある運動であつて社會としても切要な事であらう。

## 労働運動の目的

前述の如く私は労働運動の目的は經濟運動であると共に、倫理的運動であつて欲し、貧富値上げと時間短縮問題のみが労働運動の目的でない事は近代人の諒解して居る事だらう、それと共に生産界の支配權を獲得しやうといふ急激な運動も容易に効を奏するものでない、世人は金力横暴、權力專制を否認するとすれば労働專制も亦認める事が出來ないだらうと思ふ、人間の生存が孤で無い限り共助であらう、同等であり、平等であり、普遍であらねばならぬと思ふ、何の社會何の階級が專制でも横暴でもそれは等しく認める事は出來ないのである。是れ故に何處までも資本家と労働者は生産界に起つて對等であらねばならぬ。